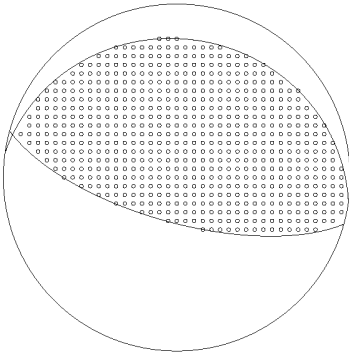


10月26日 アフガニスタン、ヒンドゥークシの地震 (W-phase を用いたメカニズム解析)

W-phase による解

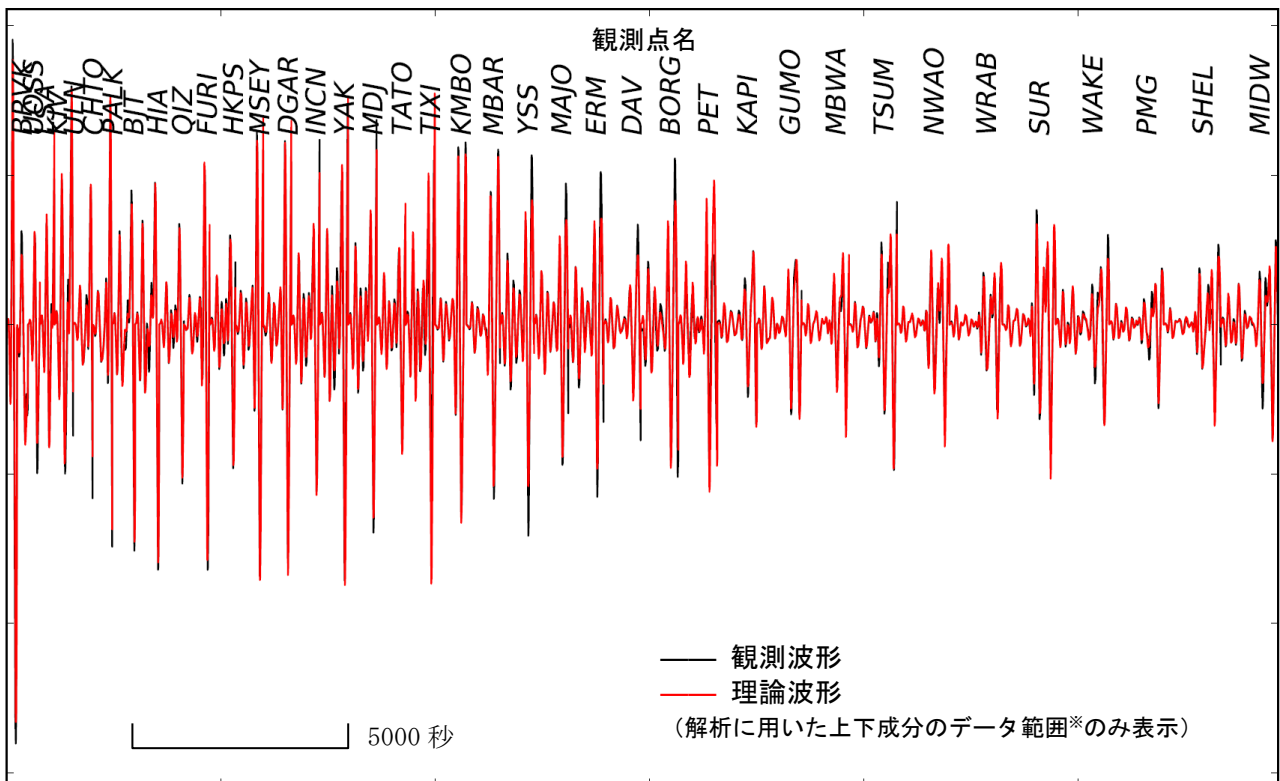


2015年10月26日18時9分(日本時間)にアフガニスタン、ヒンドゥークシで発生した地震について W-phase を用いたメカニズム解析を行った。メカニズム、Mw とも、Global CMT などの他機関の解析結果とほぼ同様であり、Mw は 7.5 であった。なお、W-phase の解析で求めた震源は N36.4°、E70.6°、深さ 201km となった。

W-phase の解析では、震央距離 10° ~ 90° までの 38 観測点の上下成分、53 観測点の水平成分を用い、100~300 秒のフィルターを使用した。

注) W-phase とは P 波から S 波付近までの長周期の実体波を指す。

Mw	M ₀	断層面解 1 (走向/傾斜/すべり角)	断層面解 2 (走向/傾斜/すべり角)
7.5	2.30 × 10 ²⁰ Nm	105.6° / 69.0° / 92.7°	278.1° / 21.2° / 83.0°



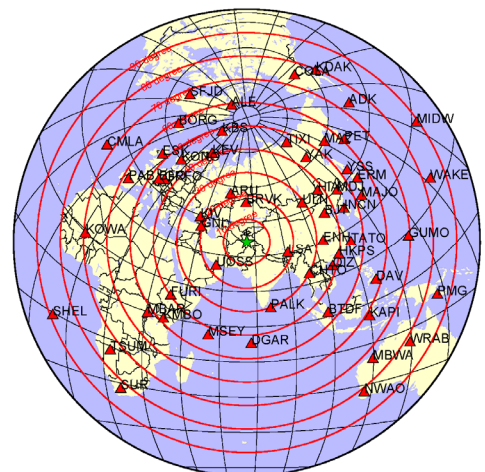
※解析に用いたデータの範囲は 15 秒×震央距離(度)としており、各々の観測点の解析区間のみを繋げた波形を表示している。

(W-phase に関する参考文献)

Kanamori, H and L. Rivera, 2008, Geophys. J. Int., **175**, 222-238.

解析データには IRIS-DMC より取得した広帯域地震波形記録を使用した。

また、解析には金森博士に頂いたプログラムを使用した。記して感謝する。



解析に使用した観測点配置

気象庁作成